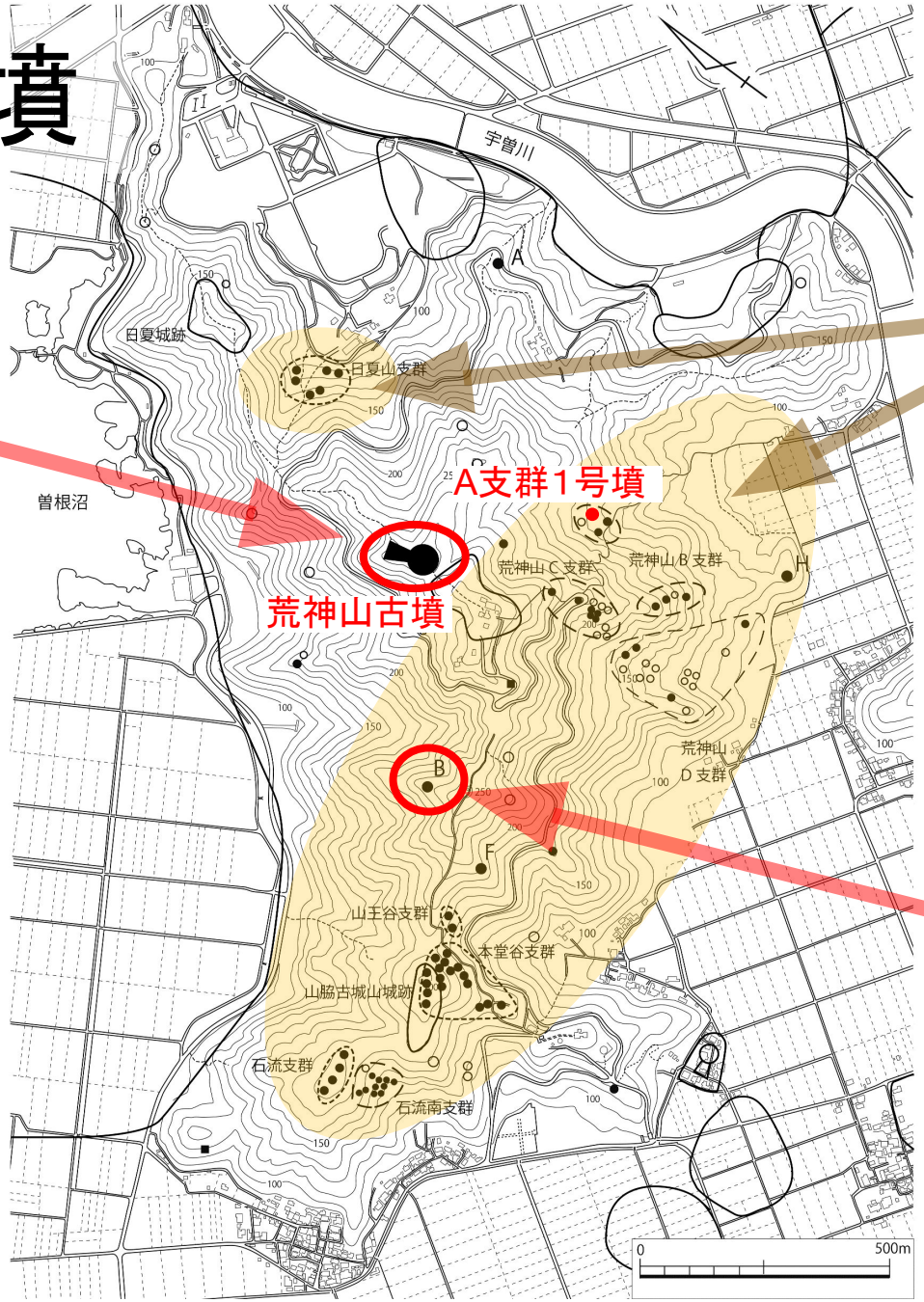
荒神山にある古墳

今から1550年ほど前に山の頂上につくられた荒神山古墳。カギ穴の形をした「前方後円墳」と呼ばれるお墓で、全長は124mもあります（滋賀県で2番目の大きさ）。



荒神山のあちこちに、1400～1300年前の小さな古墳たちがたくさん見つかっています。これらの中には、亡くなった人を埋めるため、大きな石を積み上げてつくった部屋（横穴式石室）がつくられています。

荒神山B号墳

荒神山A支群1号墳

荒神山の古墳群の中でも、
特に大きな石室をもつ古墳。
1300年ほど前につくられました。

石室が良い状態で残っていて、
壁や天井も当時の姿のまま。

いま発掘しているのは…

荒神山A-1号墳のここがスゴい？！

入り口の天井の部分にも、ものすごく大きな石が使われています。

とにかく石がデカい！

電気も機械もない時代…
人の力だけで石を運んできて、この古墳がつくられました。

調査前の石室の中。床の上に大量の土がたまっていて、壁の下の方は深く埋まってしまっています。
この土を掘って、<u>石室のもともとの形</u>を明らかにします。

奥から入り口側を見た写真

西側調査区（調査開始前）

西側調査区

北側調査区

古墳はもともと、丸い、「まんじゅう」のようにもり上がった形だったはずなのですが、くずれた上に土が積もっていて、形がよくわからなくなっています。どこまでが古墳だったのか、掘って確かめています。

北側調査区（調査開始前）